

タイプ A を知る

～循環器疾患患者理解の一考察～

18階西 ○甲斐実生 杉本 石黒 小林

下村 藤原 田山 阿部(加) 阿部(満)

I はじめに

近年、A型行動パターン（以下タイプAと略す）は、喫煙、高脂血症、高血圧、糖尿病に並び冠動脈疾患の危険因子として取り上げられ、研究が進んでいる。

我が循環器内科病棟においても、時折、看護婦間の会話の中で、「あの患者は、タイプAだ」というような言葉を耳にする。それは、看護婦の心疾患患者に対するイメージの一表現として使われているようである。

病棟看護婦に、タイプAをどのように捉えているか意識調査を行ったところ、細かい、しつこいなどの印象を持ち、避けたい、仕方ないという思いで接している事が分かった。

以上より、私達は、一方的なイメージを持ち、個性のない看護を行っているのではないかと考え、危機感を覚えた。そこで、そのイメージを取り除き、タイプAの正しい理解、又、人間理解に結びつけたいと考え、研究に取り組んだので、ここに報告する。

II 研究方法

1 18階西病棟の看護婦21名に対し、平成5年8月1日～8月12日まで、タイプAに関する意識調査を施行した。（資料1参照）

2 18階西病棟において、平成3年～4年にかけて入院した冠動脈疾患患者91名に対して、第2内科医師が、JCBS法（Japanese-Coronary-Prone Behavior-Pattern-Scale）を用いて、タイプA又は、タイプBを判定した調査結果を用いた。

その中で、タイプAと判定された患者を、A～Jの項目別、(A)仕事、(B)精神生理、(C)性急さ行動の速さ、(D)食行動、(E)話し方、(F)日本的メンタリティー、(G)敵意に関連した行動、(H)敵意に関連した感情、(I)社会的サポート、(J)発達の側面に沿い、患者がどのように回答しているのかをまとめた。（資料2、3参照）

III 結果および考察

フリードマンとローゼンは、タイプAについて、「激しく慢性的持続的な奮闘を行う人に見られる行動であり、感情複合で、より多く、より速く短時間に達成しようとし、必要とあらば、他の物事、他人の反対に逆

らってでも行動する様式」と定義している。

看護婦による意識調査では、病棟にタイプAが多いと答えた人が大半であったが、JCBS法では91名中47名がタイプAに該当し、それ以外とほぼ同数という結果であった。今回、このほぼ同数の値を多いとるか否かは追求せず、看護婦の意識ではタイプAが多いと捉えている点に注目してみた。そこには循環器疾患患者＝タイプAというように、看護婦側の一方的なイメージにより、患者はタイプAと決めつけられ、看護婦に対応されているのではないだろうか。

JCBS法のタイトルは被験者に抵抗のないように「日常生活調査表」としてあり、患者の背景因子として、性別、年齢、職階層の記入欄がある。そして基本的構造として10項目、尺度に関する合計122項目の各々を、医師の判定によって出されたタイプAに該当する47名について、今回集計をした。その結果と看護婦への意識調査を照らし合わせ、考察した事を以下に報告する。

Aは仕事に関する項目であるが、仕事熱心、仕事の為には自分を犠牲にする、家庭より仕事が大切である等で、あてはまると答えている人は、約70%占めており、タイプAにおいて、仕事に対する思い入れの強い人がかなりの割合にいる事が分かる。看護婦の意識調査でも、入院中も仕事が気になり、仕事をしているなどが挙げられている。

Fは日本的メンタリティーや人生観に関する項目であり、義理堅い方である、世間体を気にするなど他20項目があり、あてはまるが約66%を占めている。これには、自己抑制、他者志向、集団志向、甘えなど日本人の特徴とされている項目が含まれている。

G、Hは敵意性に関連した行動、感情の項目で何事も自分でしないと気が済まない、人から指示されると腹が立つ、人の好き嫌いが激しいなど20項目あり、あてはまるが61%を占めている。看護婦の意識調査でもこの項目の意見が最も多く、これらA、F、G、Hの項目からは、タイプAの特徴を、捉えていると思われる。

しかし、一方では、Cの性急さ・行動の速さ、Dの食行動などでは、約半々の結果が出ている。又、Bの精神生理、Eの話し方の項目では、実際に当てはまらないが約70%、61%と過半数を占めるという意外な結果が出た。この事は、タイプAに於いて、総合的にはタイプAと判断された人でも、様々な側面があり、多面性があるのではないかと考えられる。実際、看護婦はタイプAについて、自分なりのイメージをもっており、その為、タイプAだからとる行動と、決めつけてしまう。これは、1人の人間をあらゆる側面の総合的構成的な捉え方が出来ていない事の現れである。これからは、個々の多面性を重視した対応をする必要があると分かった。

さらに、私達は研究の過程の中で、タイプAについて、ある報告に興味を抱いた。それは『罹患率に相反して、冠動脈疾患を発病した後の死亡率では、タイプAの死亡率は、それ以外と比べ、58%しかない』というものである。

一般的に慢性疾患において、患者の自己管理能力は疾患の予後を、大きく左右することが多い。このことから、上記の死亡率の低下は、患者の、自己管理能力の高さも、一因として考えられる。看護婦の意識調査でも、食事、検査など時間のずれは許せず、何度も質問する、入院中の生活や血圧値など詳細に渡り、記録をしている等も、この自己管理能力に優れている行動の現れではないか。「タイプAの人は、自分のやり方に、並々ならぬ自信を持っており、実際に、それによって、社会的にも成功している人が多い」と言われている。JCBS法の、背景因子の職階層に注目すると、タイプAはそれ以外に比べ、実際に、職階層が高いという結果にもなった。(資料4) このような、患者の自己管理能力を支援し、援助することが看護婦の役割である、ということに気付かされたが、今回の研究では、その具体的なアプローチ方法を、研究するまでには至らなかった。

タイプAと総合的に判定される背景には、社会的背景も関係しており、又、これまで述べてきたように、様々な面から判断され、看護婦自身その多面性を知った事で、患者を先入観で判断してはいけないという、看護の基本を振り返ることが、今回の研究の学びである。

IV おわりに

今回の研究では、看護婦が、面倒臭い、細かいというような固定したイメージでしかタイプA患者を見ていなかったが、実際のタイプA患者は、多くの多面性を持っている事が分かった。また、今後我々看護婦は、その固定したイメージを取り除き、看護の提供を行わなければならない事に気付いた。しかし、タイプAについての研究は、現在も発展途上の段階であり、看護者としてのタイプAに対する具体的アプローチには至らなかった。今後の課題として、交流分析等の視点で研究をし、タイプAの多面性に着眼し、患者の退院指導など、実際に生かせる看護に結びつけられる様考えていきたい。

最後に、今回の研究で多大な協力を戴いた、松本先生、その他の方々に深謝致します。

引用文献

- 1) 保坂隆 他 タイプA行動パターン 9
1993年

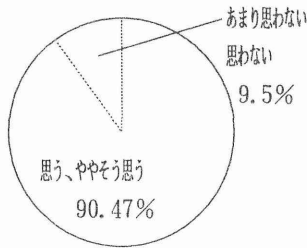
参考文献

- 1) 桃生寛和 木村一博 他 タイプAN01～N04
1990～1993
- 2) 保坂隆 他「待つ」ってどんなことかわかるか
看護学雑誌、1051～1053 53(11) 1989-11
- 3) 篠田知璋 狭心症患者の行動特性と発作の関係
看護技術、17～20、VOL36N05、1990-4
- 4) 江尻昌子、石川今日子 他：急性心筋梗塞患者の行動パターンと心臓リハビリテーションにおけるコンプライアンスの関係、HEART NURSING 83～91 VOLN08 1991～4
- 5) 宮本千津子 他：心筋梗塞患者における自己管理行動とその要因について、千葉大学看護紀要 9～17、VOL13、1991～3
- 6) 花田妙子：心筋梗塞患者の日常生活の自己管理行動に影響する要因の研究、日本看護研究学会雑誌 15～25 VOL14N02、1991-5

資料1 看護婦への意識調査の集計

◎この病棟にA型行動パターンの人は多いと思いますか

- ・思う 5名
- ・やや思う 14名
- ・あまり思わない 2名
- ・思わない 0名



◎A型行動パターンと思われる患者を、どう思われますか



◎患者がどのような行動をとった時、A型行動パターンの人だと感じますか。

A：仕事

- ・入院中仕事の事が気になり仕事をしている。8名
- ・検査のない時は、必ず外出、外泊をして仕事をしてくる。2名
- ・仕事を趣味の様にしている。1名

B：精神・生理

- ・不定愁訴的などところがある。2名
- ・安静保持をしていると、イライラしている。2名

C：性急・行動の速さ

- ・じっとしていることが出来ず、何かしら活動している。2名

- ・食事、検温、検査などの時間のずれは許さない。8名
- ・物事をスケジュール化するのが好きだ。1名
- ・入院するとやる事がなく、ぼんやり過ごしてしまう。1名

D：食行動

- ・早食いだ。5名
- ・飲み込むように食べている。2名

E：話し方

- ・声が大きい。1名
- ・説明などは、「はい、はい。」と相槌を打ち、手をせかせる。2名
- ・話（検査の説明など）をさいそくする。1名

F：日本的メンタリティー

- ・几帳面である。1名
- ・自分が納得するまで行動しない。1名
- ・入院中の出来事、様子を細かく記録し続けている。9名
- ・バイタルサインが、自分が思っている値と少しでも違うと大さわぎをする。5名
- ・ちょっとした事が気になり考え込む。2名
- ・あいまいな答え、説明に納得せず、追求する。2名
- ・身だしなみ、周囲が整頓されている。2名
- ・神経質に、小さな事でも気になり、細かく訴えて来る。2名
- ・細かいくせに、自分では大雑把だと思っている。1名

G：適意性に関連した行動

- ・大勢で話をしていると割り込んできて、自分に注意を向けたがる。1名
- ・仕事の自慢をする。1名
- ・場をしきる事が好きだ。1名
- ・医療者の前では、文句など言わないが、家族にブツブツ文句を言う。2名
- ・家族、会社の部下に対して厳しい言動。1名
- ・医師、看護婦の仕事内容を評価したがる。1名
- ・他の人との交流を持ちたがらない。1名
- ・こだわりが強く、ねちねちとしつこく話す。3名
- ・自分の要求、欲求ばかり求める。2名

H：適意性に関連した感情

- ・自分の信用する人の言う事しか聞かない。1名
- ・思い込んだら、他の言意を受け入れない。1名
- ・自分の権利ばかり主張し、自分の義務は忘れている。1名

資料2 JCBS法アンケート

《目的》

この調査の目的は、あなたの日常生活について教えていただくことによって、今後の治療やアドバイスに役立てようというものです。答えていただいた内容を第三者にもらすことは決してありません。安心して率直にお答えくださるようお願いします。

(発病前の状態について答えて下さい。)

まず最初に下欄に記入してください。

指名 _____	性別 男・女	年齢 _____ 歳
職業を○で囲んで下さい。	上級管理職・専門職・中間管理職・一般事務職 技能職(熟練工)・技能職(非熟練工) パート・アルバイト・その他()	
最終学歴を○で囲んで下さい。	小学校・中学校・高等学校・専門学校・短期大学 大学・大学院・その他()	
記入年月日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	
今の開始時刻を記入して下さい。	午前・午後 _____ 時 _____ 分	

《記入の仕方》

あなたの日常生活が、以下の質問にどの程度当てはまるかについて、各項目の右欄の最も当てはまる箇所(数字)を○で囲んで答えて下さい。

どちらか迷う場合でも、より近いほうを選び、必ず全ての項目に答えて下さい。

A

1. 仕事に熱中する。
2. 仕事のために自分を犠牲にする。
3. 仕事仲間から誘われると、気分が乗らなくてもつき合う。
4. 愛社精神が強い。
5. 仕事が自分にぴったり合っている。
6. 職場では自分の意見を言いたくても、はっきり言えない。
7. 仕事のためには家庭を犠牲にすることがある。
8. 家庭より仕事の方が大切と思う。
9. 人より仕事を早くはかどらせる自信がある。
10. 仕事のために家で食事をする機会が少ない。
11. 自分はいわゆるモーレッツ社員、企業戦士だと思う。
12. 少しでも多くの仕事をすることに満足を感じる。
13. 仲間が仕事をしていると自分だけ先には帰れない。
14. 職場の雰囲気はあわただしい。

B

15. 手のひらに汗をかきやすい。
16. 興奮すると手が震える。
17. 人の話が要領を得ないとき、イライラして机をコツコツたたくことがある。

18. 激怒すると言葉につまることがある。
19. 会議中などによく貧乏ゆすりをする。
20. かなり忙しく働いてもあまり疲れを感じない。

C

21. のんびりしていてもいい状況でもリラックスできない。
22. 1日が24時間では足りないと思う。
23. いつも時間に追われている感じが強い。
24. 暇さえあれば常に何かをしている。
25. 歩いていて、前の人が遅いと追い越す。
26. 信号が赤になりそうでも渡ってしまう。
27. (車を運転していると仮定して)渋滞に出くわすと、すぐ脇道に抜けたい。
28. 十分な時間があっても早く食べてしまう。
29. 朝食をとりながら新聞を読む。
30. エレベーターに乗った時、「閉」のボタンをよく押す。

D

31. いわゆるグルメ(美食家)である。
32. あっさりした食事を好む。
33. 野菜は嫌いである。
34. 肉食を好む。
35. 食事の時間は規則正しい。

36. 食事を抜くことがある。
37. 塩辛いものが好きである。
38. 和食よりも洋食の方が好きである。
39. 栄養のバランスには気を配っている。

E

40. 早口である。
41. 人から声大きいと言われている。
42. 「絶対に」とか「必ず」と断定的な表現をすることが多い。
43. 舌打ちすることが多い。
44. 人の話をせかしたくなることが多い。
45. 人の話を途中でさえぎることが多い。
46. つい声をあらげてしまうことがある。

F

47. 人間関係よりも、たてまえを大切にする。
48. 義理がたい方である。
49. 世間体を気にする。
50. 人からどう思われているのか、いつも気になる。
51. 自分を抑えても人との和を大切にする。
52. 短くても太く生きたい。
53. 人生に対する信念を持っている。
54. 目下の者によく自慢する。
55. 目上に対して良い顔をしてしまう。
56. 人のめんどろみがよい。
57. 人に頼られると悪い気がしない。
58. 他人には甘えない。
59. 何でもきちんとしないと気がすまない。
60. 人から几帳面であると思われる。
61. 真面目である。
62. 出来れば一流品を身につけたい。
63. 腹がたっても我慢する。
64. 負けず嫌いである。
65. 何でも一番でない気がすまない。
66. 同僚にだけは負けたくない。
67. 自分が正しいと思ったら上司にも譲らない。

G

68. 気の合った人（集団）としか付き合わない。
69. 何事も自分でやってみないと気がすまない。
70. 物事は何でも独力でやってきた。
71. 人から指図されると反論する。
72. 家ではほとんど怒鳴ることがない。
73. 自分の考えを人に押し付けることがある。
74. 議論したり討論したりするのが好きである。
75. 「人に～してやった」という言葉をよく用いる。
76. 人をほめるのが上手である。

H

77. 仕事の能力のない部下みるとイライラする。
78. 今の世の中に満足している。
79. 勤務時間中になまけている人を見ると腹が立つ。
80. 人の好き嫌いが激しい。
81. 人を信用しやすい。

82. 人の助けを借りるのが嫌いである。
83. 人から指図されると腹が立つ。
84. 自分は正当に評価されていると思う。
85. 人のまちがいは正してやる必要がある。
86. 多くの人は自分が教えてやらなければ分らない。
87. 他人の成功を心から喜べる。
88. 人の欠点に目がいってしまう。

I

89. 今の人生に満足している。
90. 家族とよく話し合いをしている。
91. 自分が困ったとき、家族はよく相談に乗ってくれる。
92. 自分が困ったとき、友人はよく相談に乗ってくれる。
93. 入院したとき、世話をしてくれる人が身近にいる。
94. 職場などで仲間外れにされていると感じることがある。
95. 職場の人間関係がうまくいかないと感じることはある。
96. 家族とはうまくいっている。
97. 電話で長いおしゃべりをすることがある。
98. 仕事以外の集まりにもよく顔をだす。
99. 友人や近所の人のところへよく遊びにいくし、家にも楽しみがたくさんあるので退屈することはない。
100. 家族ぐるみで付き合える友人がいる。

J

101. 私が小さい頃、父親はせっかちであった。
102. 私が小さい頃、父親はおこりっぽかった。
103. 私が小さい頃、父親は厳しかった。
104. 私が小さい頃、父親は愛された。
105. 私が小さい頃、父親はのんきであった。
106. 私が小さい頃、父親はいわゆる過保護であった。
107. 私が小さい頃、父親は働き者であった。
108. 私が小さい頃、母親はせっかちであった。
109. 私が小さい頃、母親はおこりっぽかった。
110. 私が小さい頃、母親は厳しかった。
111. 私が小さい頃、母親は愛された。
112. 私が小さい頃、母親はのんきであった。
113. 私が小さい頃、母親はいわゆる過保護であった。
114. 私が小さい頃、母親は働き者であった。
115. 自分は父親に似たと思う。
116. 自分は母親に似たと思う。
117. 父親を尊敬している。
118. 母親を尊敬している。
119. 父親は嫌いである。
120. 母親は嫌いである。
121. のんびりした土地で育った。
122. 小さい頃、幸せだった。

資料3 JCBS法による集計

記号	質問内容	あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	だいたいあてはまる	非常によくあてはまる
A	仕事	61 (9.1%)	127 (19.9%)	289 (43.0%)	183 (27.2%)
B	精神生理	105 (36.5%)	99 (34.4%)	76 (26.4%)	15 (5.2%)
C	性急さ・行動の速さ	105 (21.9%)	118 (24.6%)	155 (32.3%)	94 (19.6%)
D	食行動	87 (20.1%)	140 (32.4%)	144 (33.3%)	52 (12.0%)
E	話し方	85 (25.3%)	122 (36.3%)	107 (31.8%)	32 (9.5%)
F	日本的メンタリティー	106 (10.5%)	242 (24.0%)	477 (47.3%)	183 (18.2%)
G	適意に関連した行動	54 (12.5%)	122 (28.2%)	204 (47.02%)	50 (11.5%)
H	適意に関連した感情	48 (8.3%)	158 (27.4%)	308 (53.5%)	57 (9.9%)
I	社会的サポート	109 (18.9%)	138 (24.0%)	211 (36.6%)	96 (16.7%)
J	発達の側面	197 (18.7%)	280 (26.5%)	297 (28.1%)	209 (19.8%)

資料4 JCBS法の職階層

